種名	ウ　シ　ガ　エ　ル Rana catesbeiana
分類	無尾目アカガエル科アカガエル属
俗称	和名は「ブオー、ブオー」と牛に似た声で鳴くことに由来する。戦前、食用として導入されたことから、食用ガエルとも呼ばれている。
形態的な特徴	成体の体長は約 15～18cm と大型で、日本に生息するカエルの中では最大である。背面の皮膚はサメ肌状で、目立ったイボや背中線、背側線はない。体色は、ふつう背面は緑褐色で、腹面は白色と黒色の斑紋がある。他のカエルに比べ鼓膜が大きく、目の直径の2倍近くもある。後肢は長く、ジャンプ力に優れている。幼生（オタマジャクシ）も大型で、成長すると全長 12～15cm に達する。
分布	北海道、本州、四国、九州のほか、徳之島、沖縄島、石垣島などの島嶼に分布する（すべて人為移入）。原産地は北アメリカ東部。
繁殖行動	繁殖期は5～9月にわたり、池沼や大きな河川の溜り、水田、水路など、広い水面をもつ深い止水や、ゆるやかな流れで行なわれる。オスは水面で「ブオー、ブオー」と牛に似た声で鳴き、他のオスが近づくと激しい闘争をして縄張りを守る。メスは水草の多い場所に、水面に平たく浮く大卵塊を産み、一卵塊中の卵の数は 6,000～20,000 個にも達する。幼生（オタマジャクシ）はふつう幼生越冬し、翌年の5月から10月に変態し上陸する。成体は、はじめは小さな昆虫類を食べるが、成長とともに大きな餌を食べるようになる。成体はおもに土中で越冬するが、水底で行なうこともある。変態後、2～3年で性的成熟に達する。
生息場所	平地性で、池や沼、水田、水路などの水辺に生息する。
食性	アメリカザリガニや昆虫を好んで食べ、同種の幼生・幼体や他種のカエル、魚、鳥のヒナ、ネズミなども食べる。
生息環境への配慮事項	1918 年に食用としてアメリカから東京に持ち込まれ、日本各地で養殖された。その後、逃げ出した個体が自然繁殖し、現在では各地の池沼、河川に定着している。成体は大型で、他の日本在来のカエル類や魚を食べるなど生態系に影響を及ぼしているため、これ以上分布を拡大しないよう留意が必要である。
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	